Saijodan

広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3　広島城北学園内　〒732-0015
電話 082-229-0111　FAX 082-220-2366

2001年1月3日 初蹴り

サッカー部の思い出

元広島城北高校サッカー部監督　井上雅行

1981年(昭和56年)7月1日付けの月刊広島サッカーニュースの記事に「第34回広島県高校総体サッカーは、6月6日から15日まで、県内各地の予選を経た32チームによって行われ広島工業高校が3年連続7度目の優勝をなしとげ、幕を閉じた。

(中略)

今回の大会で特筆されることは、従来サッカーの名門校と言われていたチームが予選段階で姿を消し、新興勢力とも言えるチームが台頭してきたことで、ベスト4入りを果たした海田・城北の活躍は立派であった。(後略)」とある。

この大会で我々は、

1回戦(6月6日)福山工業高校に2：1で勝ち、2回戦(6月7日)は井口高校に2：0で勝利し、3回戦(6月13日)は雨中の試合で可部高校に1：0で勝った。準決勝(6月14日)で、国泰寺高校に1：2で敗れはしたものの、広島サッカーニュースの記事通りの活躍ぶりであった。

7月17日付けのPTA新聞にも「お見事サッカー部」とお祝いの記事を掲載して頂いた。同じ年の11月1日から11月14日まで開催された第60回全国高校サッカー選手権大会広島県大会では、やはり準決勝で前回と同じ国泰寺高校と対戦し0：1で敗れはしたが、試合のタイムアップのホイッスルを聞いた瞬間に、胸が熱くなり目から溢れる涙を止めることができなかった。本物の感動を味あわせてくれた選手たちに「本当に良くやった。」としか声をかけてやれなかった。このチームの土台を築いてくれ卒業していった多くの選手達の顔が一人一人浮かんできて、何も言えなかった。振り返ってみれば、1972年(昭和47年)母校の城北学園に英語教師として勤務し、サッカー部の顧問としてクラブの指導を始めて実に9年目のことであった。これまでで最強のチームであった。そのチームのメンバーの中に、現在体育教師として、又、高校サッカー部の顧問として生徒達を指導している宮本先生がいた。まだ高校1年生のフレッシュ部員だった。

1972年当時の城北では、クラブ活動は現在ほど活発ではなく、クラブとして合宿をしたのもサッカー部が始めてだった。それ以後、少しずつ新任の先生が入ってこられ、バスケット部、バレー部、自転車部といったクラブも合宿を始めるようになり、今では多くのクラブが夏の合宿を行っている。バレー部(宮川先生)、自転車部(故山根先生)と3つのクラブ合同で、加計高校芸北分校のグランドや体育館を借り、近くのスキー場の宿泊施設に寝泊りをし、合同合宿を行ったこともあった。今は懐かしい思い出である。対外試合にも苦労をした。指導を始めた頃のサッカー部は、お世辞にも強いとは言えず、休憩時間を利用して他校に試合を申し込んでも、10校中9校に断られた。しかしベスト4に入った後は、そのような苦労は1度もなかった。1ケ月の練習試合のスケジュールが数時間の内に決まることもあった。色々な出来事があり、色々な人や生徒との出合いがあった。現高校教頭の田辺先生、「サンフレッチェ」がまだ「東洋工業サッカー部」と呼ばれていた時代にオリンピックの全日本代表選手であった岡光龍三氏(「岡光さん」我々はこう呼んでいた)、戸坂中学のサッカー部顧問の大辻先生(現広島大学付属中学校)、国泰寺高校の山成先生(現皆実高校)、そしてサッカー部を支えてくださり、共に泣き共に笑って下さった多くの保護者の方達に今は心から感謝している。

大病を患いサッカー部から離れてしまったが、今年十年振りに高校サッカー部が予選を勝ち抜き、県総体に出場するニュースを聞いてとても嬉しかった。残念ながら本大会では2回戦で敗れはしたが、将来に楽しみを残してくれた。宮本先生の指導のもと「城北高校サッカー部」が、いつの日にか全国大会へ出場し、私の果たせなかった夢を実現してくれることを祈っている。

高校時代の思い出

30回生　猶崎修平

城北高校サッカー部OB会の皆さんこんにちは。30回生の猶崎修平です。皆さんお元気ですか？

最初に近況報告させていただきますと現在社会人3年目、安田火災海上保険株式会社で自動車販売会社(俗にいうディーラー)を担当し日々保険の拡販に取り組んでいます。

数字に追われるつらい毎日を送っているのですが最近おめでたいことが2つあったので報告させていただきます。

1つは同期の島末君が約5年間の交際を経て結婚したことです。

5月13日サッカー部の同期で結婚式に参加させていただいたのですが、島末君を見ながらみんな大人になっていくんだなーと感じたものです。(良ちゃんかっこよかったよ)。

もう1つは我等が城北サッカー部が県大会出場を決めたことです。最後に出場してから何年経ったのかわかりませんが宮本先生・コーチの岩井さんによると、次から次へと優秀な選手が出てきているので今後はコンスタントに県大会出場が望めるとのことです。

僕たちの頃には県大会出場は目標というより夢という感じでしたが、昔は県でベスト4に入ったこともあるのですから県にとどまることなく、いつかは全国大会に出場して欲しいものです。

全国大会出場のあかつきにはOBみんなでジャローガ(OBの板坂さんの経営するバー)にて会費1000円でドンちゃん騒ぎをしましょう。板坂社長よろしくお願いします。

さて、高校時代の思い出ですが負けた記憶ばかりあってつくづく弱いチームだったなーと思います。思い出の試合を1つ挙げるならやっぱりその年全国大会に出場した沼田高校と対戦した新人戦予選です。いつもは僕が思いやりを込めて出すスルーパスを見事にはずしていたFW金口さんがこの試合に限ってどういうわけかシュートを決め、ディフェンスの攻守にも助けられ、後半中頃まで1－0でリード。これはやばい本当に勝ってしまうなんて考えていたらあっという間に2点取られて結局負けてしまったのですが今では良い思い出になっています。

それからよく覚えているのは試合中ワンツーやスルーパスを決めるたび、宮本先生が「なおー！」と甲高い声で僕のことを呼び親指をたてて褒めてくれていたことです。ベンチとグラウンドのサイドラインで隔てられた二人の間にはアイコンタクトも成立していました。(先生はどうか知らないですけど僕にはそっちの趣味はありません)。

当時は先生に誉められるのがうれしくてどうやったら先生が驚くだろうとそういうことばかり考えてプレーしていました。あんまり度が過ぎると久村さんに試合が終わった後に「なおのせいで負けた」とおこられるのですが・・・、それは苦い思い出です。

くだらない思い出はそのくらいにして。

最後に、若手OB、特に僕たちの下の代のみなさんに向けてですが、城北サッカー部OB会をもっと盛り上げていきましょう。僕たちがこうして高校を卒業してもすばらしい仲間、先輩方にかこまれているのはひとえに城北サッカー部があったからだと思うのです。

確かに城北サッカー部の歴史を作っていくのは現役の選手たちですが、OB会を通じて少しでも現役の選手に貢献することで城北サッカー部の歴史に関わっていけたらと思います。近年初蹴りを欠席気味の皆さん、今年初めて参加する皆さん、1月3日にみんなの顔をみれば、また明日から頑張っていこうと思えるはずなので是非来年は参加してください。

みなさん、こんにちは。

平素はこのOB会活動にご協力いただきまして
誠にありがとうございます。

この会もおかげさまで発足6年を迎えるになりました。これもひとえにOBのみなさんの「愛校心？」と「宮本先生への世話になった感謝のしるし」と思って感謝しております。

歴史というものは物事を始め、継続し続けてはじめて歴史という言葉に置きかわるのではないか？そういった意味では、今後も皆様方の更なるご協力よろしくお願いしておきます。もうみなさんの耳に入っていることとは思いますが、今年の春の大会では、なんと15年振りの(最後に出たのは岩井以来だと思うのですが…)念願の「県大会出場」を果たしました。

結果は…。

結果はともあれこの、「県大会出場」のニュースは長い間、埋没していた城北のサッカー部の「宮本・黒瀬・岩井体制」で望む新たなる歴史の一歩のスタートという位置づけとしては最高のニュースでした。

若いOBの皆さんが現役の時に私も合宿へ参加させてもらいましたが、その頃必ず私が皆さんに話していた言葉が、まず「県大会出場」だったように記憶してます。皆さんの時には実現しませんでしたが、今まさに後輩たちがやってくれたようです。素直に心から祝福してやりましょう！！

今後の更なる城北サッカー部の発展と、OB会の発展と共に

今後も、現役支援のため皆様のご協力宜しくお願いいたします。

宮本監督へ、「我々の夢、実現へ向けてしっかりチームづくり」たのみます。

今年の4月1日に転勤し水戸に住んでいるOB会長吉川より

サッカー部の思い出

31回生　川越　琢

城北サッカー部史上、最低の選手は？と聞かれれば、それは間違いなく僕です。後にも先にも僕ほどダメ選手はいないと言える自信があります。

3年間で公式戦出場はもちろんゼロ。メンバーになったことさえありません。それどころかFWのくせに3年間の練習試合(無論B戦です)での総得点は 10 点ちょっというほどでした。シュートを放てば枠の外。ドリブルをすれば足がもつれ、グランド 10 周走ればいつも最後尾・・・。技術のなさと持久力のなさを兼ね備えた全くのダメ選手でした。

中学生までの僕はと言うと、子ども会のソフトボールでは 4 番でキャプテン。運動会のリレーは小4から中3まで毎年選ばれました。運動は得意で何でもできたものです。しかし中学でいわゆる帰宅部生になってしまったからか、身体的にも精神的にも非常に弱い人間になってしまったのです。身体的な問題はある程度精神面でカバーすることができますが、僕はさらに人一倍精神的に弱い人間でした。「ああ駄目だ・・・。」の繰り返しです。技術も持久力も精神力もない、そんな選手が上手くなるわけもなく、3年間城北サッカー部の一番下を守り続けてしまったのです。

中学まで何でもそこそこなしてきた僕が初めて「一番下」を経験したのが、この城北サッカー部の3年間だったのです。—小3のとき同じクラスにO君という勉強の全くできないダメ小学生の代表ともいうべき生徒がいました。サッカー部の3年間で僕は彼の気持ちが痛いほどよく分かりました。「何で2ケタのたし算がわからんの？」なんて偉そうに言ってごめん、O君。—と正直そう思ったものです。「一番下」で居続けることの辛さが身にしみて分かりました。

シュート、ドリブル、リフティング・・・何をやっても一番下手で持久力もなかった僕は、毎日の練習についていくのがやっとでした。何度も何度も辞めようと思いました。自分がチームのお荷物的存在でいることに日々悩み、それがまた悪循環となり、益々伸び悩みました。それでも練習はほとんど休むこともなく何とか最後まで一番後ろでみんなについていきました。辞めたら僕には何も残りません。ダメ人間の道を一直線に進むだけです。意地もプライドもありませんでした。ただ最後までみんなについていく。それだけでした。

そんな僕が最後まで続けられたのは、やはり城北サッカー部が好きだったからです。僕には辛い練習の日々のなかで、サッカー部のみんなの県大会出場に向けた熱い想いが、僕の重い足をグランドまで運んでくれました。僕の場合、サッカーが好きだからサッカー部にいたのではなく、サッカー部が好きだったからサッカーをしていたというのが本当のところです。

引退して、同級生でただ一人、20 人のメンバー枠に入れなかった僕が、宮本先生、黒瀬先生のご配慮でサッカー部を代表して、生徒会賞を貰いました。朝礼のときに各クラブの代表が貰ったのですが、クラスの友達から「何でサッカー部、ミガクなん？」と目一杯からかわれたものです。今でも僕はこの時の賞状を大切にしています。それは僕にとって、決して「頑張った」という証ではなく、「頑張れなかった」自分に対する悔いをいつまでも忘れないためのものです。

僕には正直辛かったの一言に尽きる、城北サッカー部の3年間でした。その時ほど精神的に苦しんだ日々はありません。しかしその3年間は僕を人間的に強くしてくれた、かけがえのない青春の日々でもあったのだと今では感じています。宮本先生、黒瀬先生、コーチ、選手のみんな、その他サッカー部でお世話になった全ての方々に感謝の気持ちで一杯です。

「宿　題」

35回生　大川内純一

「絶対に県大会に行かなくてはならないチーム」として始まった僕等のチームは結局公式戦わずか一勝しかできず終わってしまった。別にその結果がどうとかはないが、素直に勝負弱かったと言えるだろう。

それでも城北サッカー部で学んだこと、得たものはたくさんあった。一年生の時からレギュラーとして試合に出させてもらっていたので、それなりに責任感を持てる様になったし、高校生の時はそうでもなかったが、大学に入ってからは周りに目を配れる様にもなった。

現役の時、宮本先生、黒瀬先生、岩井さんからいろいろな話を聞いて、いろいろなことを吸収したつもりだが、今でも印象的でハッキリと憶えているのが、宮本先生の「お前ら、もう少しバカになれ。」という言葉だ。それはフォーメーション的な練習をしていた時に言われた言葉なのだが、その言葉を本当の意味で理解し行動した選手は少なかっただろう。その直後のダッシュの時にわざとコケて骨折した後輩がいたくらいだ。

僕はこの春、大学でできた友達と映画を撮り、僕はカメラマンをしていたのだが、とにかく恥ずかしかった。渋谷、下北沢を中心に撮影していたので、人があふれるくらいに群がっていて、ビデオカメラを向けると大勢の人がこっちを向いてくるのだ。そういう時、呪われた様に「バカになれ。」と聞こえてくる。バカの意味がその時ハッキリとわかった。今やりたいことを100％の力で100％表現すること。

このように高校生の時、先生達が出した言葉に答えを出せなかった人はたくさんいるでしょう。その答えを何らかの形で持っていくのが、正月なり、夏休みだと思う。「城北に帰り、そしてまた次帰った時にどれだけのものを吸収して帰れるか」それを自らに課す宿題として毎日刺激ある生活にしたい。

最後になりましたが、お世話になりました先生方、そして先輩方、本当に感謝しています。これからもよろしくお願いします。

15年ぶりの県大会出場！

４月に開催された、広島県高校総体広島地区予選において、広島城北高校サッカー部はこれまで何年間も超えることが出来なかった壁を、とうとう乗り越えました。
この一年間の活動を、駆け足で報告します。

～全国高校サッカー選手県大会広島県大会～

トーナメント方式のこの大会、1回戦は西高校と対戦した。横畠選手を中心とした固い守備と多彩な攻撃で、相手につけ入る隙を与えず、8－0で圧勝した。
続く第2戦は県昭和高校と対戦した。高山主将のゴールで先制した後は追加点を奪うことができず、試合終了直前に同点に追いつかれた。気力を奮い立たせてＰＫ合戦に望んだが、3－4で競り負けた。

～ 広 島 県 高 校 新 人 大 会 ～

今大会は、初戦で県選手権大会ベスト4の観音高校と対戦した。強豪相手にもまったくひるむことなく、立ち上がりから高山主将を中心に果敢に攻め、また守備においても今年のチームの特徴である「前線からのプレス」がしっかり機能し、前半は最高の戦いが出来た。しかし、後半になって選手の足が止まり始め、12分にディフェンスのマークがずれたところを突かれて先制された。その後は必死の粘りで奮起し、ほぼ互角に近いファイトを見せたが、追いつくことはできず、そのまま試合終了を迎えた。しかし試合後、他校の先生方からの評価は高く、特に高山主将についてはこのゲームのベストプレーヤーだったという先生もおられた。県大会への道は、この試合から開けたのかもしれない。
翌日、県大会出場の可能性がほぼ消えた第2戦は高陽東高校と対戦したが、前日の敗戦のショックからか選手の動きは悪く、1点を先取したものの後半追いつかれ、苦手のＰＫ合戦は1人しか決められず1－3で破れ、今大会を終了した。

～広 島 県 高 校 総 体　広 島 地 区 予 選～

中学校県選抜選手の高、篠原選手ら新1年生が加入し、また4日間の福岡への強化遠征で九州の高校・大学との対戦を経験するなど、近年最強と自負するチームに仕上がって臨んだ今大会は、初戦で再び観音高校と対戦した。風下にたった前半は押され気味の展開だったが、なんとか0－0で折り返した。後半は相手のプレスも早く、前半以上に押し込まれたが、集中力を切らすことなくボール際で体を張って守り、最後まで得点を許さなかった。新人戦後、毎日全員でＰＫの練習をしてきた自信もあり、先攻を選んだＰＫ合戦は４人連続でゴールを決め、相手の４人目をＧＫ鈴木選手がストップした。そして、5人目の入川選手が冷静に左隅に決めて、県大会に大きく近づいた。
宮島工業高校と対戦した第2戦は、緊張からか立ち上がりこそ動きが固かったものの、前半４分に西岡選手がゴールを決めてからは伸びのびと戦い、3－0で快勝した。
広島城北高校サッカー部は、15年ぶりの県大会出場を果たした。

～ 広 島 県 高 校 総 体 ～

福山市での県大会、トーナメント方式の初戦で三次青陵高校と対戦した。前半ロスタイム及び後半2分といういい時間帯にゴールを決めることができ、1点は失ったものの、4－1で勝利し1回戦を突破した。
第2回戦は美鈴が丘高校との対戦だったが、早くて大きなサッカーを展開する相手の勢いに押され、前半で2失点を喫した。しかし、後半11分に1点を返した後は完全にペースを取り戻し、何度も美鈴が丘ゴールに迫ったが、相手の必死の守りを崩すことができず、そのまま1－2で試合終了を迎えた。
広島県のベスト16という結果を残して、3年生は引退した。

9999999999